

## 平成 29 年度 水路技術奨励賞（第 32 回）

少壮の水路技術者の研究意欲を増進させ、ひいては水路技術の進歩・発展を図るため、昭和 61 年に「水路技術奨励賞」の基金を設け、毎年優れた業績を残した方にこの賞を贈っています。

今年度は平成29年12月20日に水路技術奨励賞選考委員会幹事会、平成30年1月16日に水路技術奨励賞選考委員会において受賞者を選考し、平成30年2月27日、水路技術奨励賞表彰式(東海大学交友会館)において5件7名の方に水路技術奨励賞をお贈りいたしました。

また、同日、海上保安庁海洋情報部との共催により開催されました「水路新技術講演会」において、受賞者の皆さんに業績を発表していただきました。

受賞者は以下のとおりで、業績は次号でご紹介いたします。（敬称略）

1. 「西之島火山周辺における海底地震観測による自然地震活動と浅部地殻構造の特徴に関する研究」

受賞者：海上保安庁海洋情報部 技術・国際課海洋研究室 岡田 千明

内 容：噴火現象に連動する特徴的な地震動および人工震源を用いた構造探査から西之島山体下にマグマが存在することを示した。

2. 「沖合観測情報に基づくアンサンブル津波予測手法の開発」

受賞者：(国研) 海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所 高川 智博

内 容：津波のピークの高さの精度を高め、浅海域・水路網等の非線形場においても詳細な津波浸水予測を可能にした。

3. 「低天端有脚式離岸堤「バリアウインT」の開発」

受賞者：東洋建設株式会社 土木事業本部 総合技術研究所 鳴尾研究所 山野 貴司

内 容：消波機能を満足しコストの削減を図り、沿岸景観への配慮等により沿岸環境保全に資する。

4. 「北極海 海氷下観測用小型AUVの開発」

受賞者：(国研) 海洋研究開発機構 海洋工学センター  
同  
株式会社インターリンク 開発部 第四開発課

渡 健介  
杉本 文孝  
坪根 聡

内 容：これは軽量小型で長距離航行が可能なAUVにより海氷海域においても海洋データの取得を可能にした。

5. 「拡張現実を用いた水中可視化システムの開発」

受賞者：東亜建設工業株式会社 土木事業本部 機電部

田中 孝行

内 容：海上工事における水中部の地形・構造物等を拡張現実の技術を応用してリアルタイムに可視化するものであり、水中作業を効率化した。



受賞者の皆さん

岡田さん（欠席）、杉本さん、坪根さん、渡さん、山野さん、田中さん、高川さん